

2025 年 4 月 27 日午前 10 時 30 分

復活節第 2 主日 主日礼拝

司会 楠元 桃
奏楽 木戸恵美子

讃美歌・詩編交読・信仰告白では起立をしますが、
お立ちになりにくい方は、座ったままでどうぞ。

（平和のあいさつ）

前 奏

招きのことば マルコ 16:6-7

讃美歌 320「ハレルヤ、ハレルヤ」 一 同
交読詩編 16:1-11(P.20/16)

祈 り 司会者

《関東教区お祈りカレンダー》
新島学園短大・中高 聖学院大学
（主の祈り）

讃美歌 327「すべての民よ、よろこべ」 一 同

聖 書 旧約：イザヤ 52:7-10(P.1148)
新約：ローマ 10:8b-17(P.288)

メッセージ『よい知らせ（福音）を伝えようⅡ』
祈 り 川上 盾 牧師

讃美歌 409「すくいの道を」 一 同

献 金 一 同
（献金感謝の祈り）

信仰告白（ドイツの信仰告白） 一 同

頌 栄 29
祝 祷 川上 盾 牧師
後 奏
報告・紹介

＜招きのことば＞マルコ 16:6-7

「驚くことはない。あなたがたは十字架につけられたナザレのイエスを捜しているが、あの方は復活なさって、ここにはおられない。御覧なさい。お納めした場所である。行って、弟子たちとペトロに告げなさい。『あの方は、あなたがたより先にガリラヤへ行かれる。かねて言われたとおり、そこでお目にかかる』と。」

《4月礼拝当番》 廣瀬一寛 田村 啓
饗場佐知子 ペニンソン・ウェン
橋本洋子 ペニンソン有子

《今週の集会・行事》

◎ 本日礼拝後 2025 年度教会定期総会
◎ 5/2(金)10:00 会堂清掃 C 組
（4 月のカレンダーが間違っていました。）

《次週の主日》

◎主日礼拝 10:30

メッセージ『』

聖書：旧約：列王記上 17:17-24(P.562)
新約：マタイ 12:38-42(P.23)

讃美歌 319, 321, 450, 11(3)

交読詩編 116:1-14(P.132/128)

司会：伊藤普史 奏楽：徳江由利

*5 月定例役員会
（改選役員の方も議事録承認まで陪席して下さい）

《予 告》

◎ 教会イラスト写真会 5/5(月)10:00-14:00

◎ 聖研祈禱会 5/7(水)10:30 & 19:30

《先週の集会》

	ジュニア	シニア	若者大人	計
C S 朝礼拝				
	礼拝堂	オンライン		献 金
主 日 礼 拝				
墓 前 礼 拝		27		
婦人会例会		13		

《報 告》

◎ 2025 年度教会定期総会

本日礼拝後開催します。役員選挙等が行われます。昼食おにぎりを準備しましたので、各自お召し上がり下さい（会費不要）。総会資料の作成にミスがありました。すべての頁を裏返して綴じ直していただくで見やすくなります。

◎ 教会建物・写生イベントのご案内

“ピザまじ” 同時開催です。準備の都合がありますので、参加される方は必ずお申込み下さい。下絵を描くのが苦手な方のために、ぬり絵部門（絵具、色鉛筆、クレヨン）もあります。

日時 5 月 5 日(月)10:00-14:00 雨天決行
昼食 ピザまじ(会費 300 円、定員 10 名)
参加希望者は掲示板の用紙に記名を（本日で）。

◎ 5 月～7 月の教会行事ごあんない

下記の通り各種行事が続きます。

* 本井康博先生講演会 5/25(日)礼拝後

“教会源 10”の特別編として、新島襄研究の第一人者である本井先生をお招きします。教会創立 140 周年に向けて、教会の源流を改めて学びます。礼拝後、昼食会（カレー）に引き続き行います。

* 新島学園聖歌隊による音楽礼拝 6/1(日)10:30

CS合同礼拝として行います。聖歌隊の皆さんによるハンドベル・コーラスによる礼拝です。午前中の礼拝のみで、昼食交流会はありません。

* ペンテコステ礼拝 6/8(日)10:30

“教会の誕生日”＝ 聖霊降臨日の礼拝、クリスマス・イースターと並ぶ教会の三大祝日です。聖餐式を行ないます。（当日礼拝後は 6 月役員会です。）

* 牧師 Jazz 6/22(日) 14:00（パイプオルガン修復チャリティ）

森下滋牧師（聖学院中高チャブレン/ジャズピアニスト）と川上牧師と共演によるコンサートです。なお、当日の主日礼拝は森下牧師によるメッセージです。

* 創立 139 周年記念礼拝 7/13(日) 10:30

前橋教会出身の田中浩一郎牧師（秦野教会）をお迎えして行ないます。

どうぞ各行事を覚えてご予約下さい。

《メッセージ》「朝の光の中で」 川上牧師

創世記 1:1-5、マタイ 28:1-10(4 月 20 日・イースター) ▼先週からのつづき。十字架上で「わが神、なぜ見捨ててのですか？」と絶望の叫びを上げて息を引き取られたイエス。その最後の訴えに、十字架の上で神が応えて下さることはなかった。本当にイエスは見捨てられてしまったのだろうか。▼時は金曜日の夕方近く...イエスを慕う人々は、急いでイエスの遺体を墓に納めようとした。日が暮れば土曜日、安息日が始まる。そうするとイエスの遺体を葬る「仕事」ができなくなるからだ。安息日はユダヤ人にとって聖なる礼拝の日。しかしこの人たちにとっては悲しみに暮れる暗黒のような一日だったことだろう。▼女たちには後悔があった。急いでいたがために、イエスの遺体に香油を塗ることができなかったことだ。安息日が明けたら一刻も早く墓を訪れて香油を塗らせてもらおう...そんな思いを抱きながら、まんじりともせず日曜日の朝を待ったことだろう。▼そして日曜日。彼女たちは墓に向かう。「あの大きな墓の石の蓋をどうやって開けようか」そんな心配を語り合いながら... 墓に着いてみると入口の蓋は既にどけられており、イエスの身体はなく、代わりに白い衣を着た天使がいて、こう言った。「あの方はよみがえってここにはおられない。いまずぐガリラヤに行きなさい。そこでお会いできるであろう」と。▼これが聖書の伝えるイースター、イエスのよみがえりの出来事である。「わが神、なぜ見捨ててのですか？」と叫んで息を引き取ったイエスを、神さまは見捨てられなかったのである。▼4 つの福音書が四者四様にイエスの復活を描いている。その中で、最も輝かしい朝の雰囲気を表しているのがマタイ福音書だと思う。天使の言葉を聞いて、弟子たちにそのことを知らせに行こうとした女性たち。すると行く手にイエスが現れて声をかけられた。「おはよう」（新共同訳）。原語のギリシャ語では「カイレーテ（喜べ）」という言葉が使われているが、以前の口語訳聖書では「平安あれ」と訳されていた。▼新共同訳聖書に変わって、一番新鮮に感じたのが、私の場合この「おはよう」であった。日常のさりげない朝の挨拶...それはイエスが特別な形ではなく、ささやかな日常の中によみがえられたのだということを示しているように受けとめた。そして思った。「イースターは朝の光の中の出来事なんだ」と。▼教会にとっても一つ大切な季節・クリスマスの物語は、夜のイメージに彩られている。それは暗闇の中に灯された、暖かいろうそくの光のような喜びである。一方イースターは、朝の光の喜び、夜の闇が覆う世界に対して、いつまでも終わらぬ闇はない！」と差し込む、圧倒的な光と共に訪れる喜びのように思う。▼イエスがよみがえられたのは日曜日、それは天地創造の初めに、神が「光あれ！」と言われた日だ。イエスを信じる人々は、安息日（土曜日）に変わって日曜日に礼拝をささげるようになった。それは朝の光の中で神の救いが示された日だからなのだ。